

白糸の滝(上井出)

白糸の滝は富士宮市上井出にある観光スポット(昭和 11 年 国の名勝及び天然記念物に指定された)である。高さ約 20 メートル、幅約 150 メートルでほとんどが富士山の湧水である。江戸時代の富士講信者の巡礼・修行の場となった。富士講(長谷川角行が開祖とされる)は江戸時代に成立した民衆信仰のひとつで、特に江戸を中心とした関東で流行したものを指すが、広義では富士山とその神霊への信仰を行うための講社全般を指している。講社とは民俗宗教における宗教行事を行なう結社のことである。

「信長公記」に拠ると、武田家滅亡後、甲斐に入った織田信長は帰国の途上で上井出地区に立ち寄り(天正 10 年 4 月 12 日)、白糸の滝付近のことを詳しく尋ねたとされているので、実際に滝を見ていた可能性は高いと考えられる。滝は信長の通過した道路のすぐ脇にあるので見ていないとは考えにくい。

(川端紅葉著 2026・2・27)



「白糸の滝(上井出)」©1994.1 川端紅葉